

授業デザイン FIRST STEP Vol.5 —小学校図画工作科「声掛け」編—



1 図画工作科における声掛けが果たす役割

図画工作科では、特に「発問」と「共感的な声掛け」が大切です。声掛けをし、児童と対話することで、児童の意欲を高めるとともに、観察だけでは見取ることができない児童の意図を引き出すことができます。



2 声掛けのポイント

下の例を参考に、声掛けのポイントを確認しましょう。

児童の表現したもの	教師が着目したところ	教師がよいと感じたこと
	<p>黄色で色をつけた花びら</p>	<p>元気で明るい感じがとてもいいな。</p>
<p>児童との対話の例</p>		
<p>お！花びらは黄色で色をつけたんだね。</p>	<p>(1) 着目したところを伝える</p> <p>児童が表現したもののよいところを見つけたときに、よいと感じたことではなく、まず着目したところを伝えます。「花びらは黄色で色をつけたんだね。」など、着目したところを伝えることで、児童は安心感をもったり、手応えを感じたりします。</p>	
<p>はい！</p>	<p>(2) 意図を引き出す発問をする</p> <p>さらに「どのようなことを考えて、そうしたの？」と発問をすることで、児童の意図を引き出すことができます。ほかには、「今の、でき具合はどう？」や「この後は、どのようにしようと思ってる？」など、発想や構想を探るための発問をすることで、より児童の意図を引き出すことができます。</p> <p>すぐに答えることができそうにない場合は、「またあとで教えてね。」と声掛けをすることで、児童がそのことを考えながら活動に取り組むことができるようになります。</p>	
<p>どのようなことを考えて黄色にしたの？</p>	<p>(3) 理解や共感を示す言葉を伝える</p> <p>対話をしながら、「なるほど。そういう意図があったんだね。」や「だから、そういう表し方をしたんだね。」というような児童の意図や行為に対する共感を示す言葉を伝えます。このような声掛けは、児童が手応えを感じることができるようになり、自信をもつことができるようにしたりする上で効果的です。</p> <p>「元気で明るい感じがいいね。」など、教師がよいと感じたことを先に伝えることは、児童の発想を狭めることになりかねないので、児童の意図を引き出すことを念頭において、声掛けをしましょう。</p>	
<p>明るい感じにしたかったからです。</p>		
<p>なるほど！明るくするためなんだね。</p>		
<p>この後は、どのようにしようと思ってる？</p>		
<p>花がもっと目立つようにしたいです。</p>		
<p>どうしたら目立つようにできるかな。</p>		
<p>⋮</p>		